

「規律正しい児童は学力も大きく向上する」—「マナーキッズ」を「市民科授業」に取り入れて—

品川区立浜川小学校 校長 矢田 雅久

学力向上の手立てとして、学習規律、生活規律の徹底。朝、昼の15分間の帯の時間や、パワーアップタイム(補修学習の時間)、習熟度学習の工夫。等さまざまな事柄に取り組んでいる。全校朝会や児童集会はもちろん、授業の最初と最後の挨拶でも、言葉を言ってから頭を下げて挨拶するという、マナーキッズで学んだ礼法を様々な場面で実践し定着を図っている。その結果、CRT(学力定着度調査)では、平成21年度と平成22年度のものを比較すると、21年度に実施していない1年生を除いた全学年で大きく向上している。規律の定着と学力向上について、中学年以上の児童を対象にして実施したアンケート調査の結果でも、学習規律や生活規律が身についている児童、または、意識して実施しようとしている児童は、身につけていない児童、意識していない児童より、この一年間で大きく学力が向上していることが分かった。

「道徳授業の中にマナーキッズ®教室を取り込んでみて」

青森県八戸市立新井田小学校
教諭 藤原 公浩

授業を終えた教師の感想

授業後、教師の意識・指導が変わった!

- 学年に応じて、また、子供たちの反応に応じて、お話をさせていただいた鈴木万亀子先生に感謝したい。ありがとうございました。子供の前に立っただけで、その場の空気が変わった。私もそんなプロの教師でありたいと思った。
- 給食のお盆・皿・器・牛乳・箸を使っただけの具体的な話は、分かりやすく説得力があり、子供の心と頭にすーっとしみ込んでいった。
- 改めて、自分(教師・大人)のマナーについて、目の前にいる子供のマナーについて考えるようになった。そして、今まで何でもないように感じていた自分や子供の行動・振る舞いに対して、「これでいいのかな?」「相手は不快ではないのかな?」と考えるようになった。
- あいさつでは、「残心」・「心のリボンを結ぶ」を意識するようになった。
- 子どもの様子を見てすぐしがるのではなく、「マナーはどうか?」「迷惑をかけていないかな?」「自分がされたらどうか?」というキーワードを子供に投げかけて、子供に考えさせるようになった。
- 自分自身も、「子供の前できちんとした振る舞いをしなくては」と意識するようになった。
- 全校児童が、鈴木万亀子先生のお話を聞いたので、全校一貫した指導ができるようになった。「鈴木万亀子先生に教えていただいた立ち方をしてごらん!」というだけで、638人の子供たちが、凛とした姿で立てるようになった。

子供の意識が変わった。そして、行動として表現できるようになった!

- 授業の始まりと終わりのあいさつでは、教師の目を見てのあいさつができるようになった。
- 「残心」・「心のリボン」を意識したあいさつをすると、その後の動きに違いが出てくる。落ち着いて次の行動に移ったり、次の準備をしてから休み時間に入ったりする姿が増えた。
- 朝食をしっかり食べるようになった。
- 道具や教室に置かれている物を大切にしようとする姿が増えた。
- 全校朝会で立つ姿や話を聞く態度が明らかに立派になった。
- 鈴木万亀子先生が、直接話さなかったことも良くなった。例えば、机の上を整理整頓する姿、机をきちんとそろえようとする姿、お互いに譲り合う姿等に見られる。

今後への課題・意見・感想

- 教師・子供だけでもこれだけの効果があったのだから、保護者へもお話していただく機会を設けることができると、さらに効果が上がると思う。何をしてもそうだが、子供・保護者(地域)・学校の一貫した教育が望ましい。
- 教育界では、「食育」が話題になっているが、マナーという視点からもせまるべきではないだろうか。
- 教育界には、依然として新しいものに対して閉鎖的なところがある。鈴木万亀子先生のような「その道の達人」の方々を外部講師として大いに活用していくべきだと感じた。